

## つづきがあります～テストの問題に使われた本～

No.149 2017. 7. 20 収録 7. 25 放送

国語のテスト問題の文章を読んで、もっと読みたいと思ったことはありませんか。今日はテストの問題に使われた本を紹介します。

1冊目は、宮下奈都/著『スコールNo.4』です。

古道具屋を営む家に生まれた三姉妹の長女・麻子。ひとつ年下の妹・七葉（なのは）とは仲の良い姉妹なのですが、平凡な自分に比べ、見た目も可愛く、時に頑固で自由奔放な妹に対して、麻子はコンプレックスを抱いています。タイトルの「スコール」とはスクールの語源となったギリシア語で、中学、高校、大学、就職という4つのスコールを通して、少女が悩み苦しみながらも成長する姿を描いています。この本は、全国の書店員で結成する「本屋さん秘密結社」が発見した傑作、として全国の書店が盛り上げ、売れた文庫として話題になりました。

2冊目は、宮本輝/著『錦繡』です。

「前略 蔵王のダリア園から、ドッコ沼へ登る Gondola・リフトの中で、まさかあなたと再会するなんて、本当に想像すら出来ないことでした」という文章で始まるこの物語は、全編とおして、もと夫婦によるおよそ1年間にわたる14通の手紙のみで構成されています。ある事件を経て別れた二人は、離婚のときに抱えたままだったわだかまりを持ち続け、ダリア園での再会をきっかけに、その気持ちをぶつけ合うことから手紙のやりとりが始まります。しかし、手紙を綴り、返事を待ち、それを読むことによって、次第に過去から未来へと目を向け、それぞれの現在を生きることを取り戻します。

3冊目は、中島敦/著『悟浄歎異（ごじょうたんに）』です。中島敦は、教科書にも載っている『山月記』が有名ですが、こちらも中国の古典『西遊記』をモチーフに、悟浄から見た悟空や八戒の姿を、作者なりのアレンジを加えてユーモラスに描いています。悟浄といえば、『西遊記』の中ではいまひとつパツとしない河童の妖怪ですが、頭でっかちで何事に対しても「考える」ばかりで、いつまでも「行動者」となり得ない悟浄は、自分と正反対の悟空に、ある種の憧れにも似た気持ちを持っています。赤ら顔、ひげ面の醜いぶ男でありながら、熱い心で人を惹きつける力がありたくましい悟空、物事を存分に楽しむ才能を持っている八戒、驚き呆れるほどの「弱さ」の中に尊いまでの「強さ」が存在している三蔵法師。それらにくらべて、自分のなんとちっぽけなことか。物事を深く考えすぎ、傍観者になりがちな人が読むと考えさせられるところがあるかもしれません。

1冊目の『スコールNo.4』は今年の中学生の学力状況テストに、2冊目の『錦繡』と3冊目の『悟浄歎異』は私が高校生の時にテストに出題され、出典をたよりに読んだ本です。引用される文章は部分的ですが、インパクトのある書き出しや物語の山場となる場面が多く、もっと読んでみたいという気持ちになりますよね。そんなときは、図書館でつづきを探してみてもいいですか。